

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-13-3/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン（バーミヤーン）

ユネスコ文化遺産保存日本信託基金による「バーミヤーン遺跡保存事業」と連携し、バーミヤーン遺跡の保存修復を実施するとともに、アフガニスタンの考古学専門家の人材育成・技術移転を実施した。また、バーミヤーン遺跡の保存にむけた報告集を作成、刊行した。

- 1-1. バーミヤーン遺跡の保存修復事業：バーミヤーン遺跡において、アフガニスタン情報文化省と共同で「バーミヤーン遺跡保存事業」第11次ミッションを実施した。
- 1-2. アフガニスタン文化財専門家研修事業：アフガニスタン考古学研究所よりアフガニスタン人専門家2名をキルギス共和国に招へいし、8月27日～9月12日にかけて発掘研修を行った。キルギス共和国国立科学アカデミー歴史文化遺産研究所と連携し、アクベシム遺跡において発掘、保存修復・史跡整備についての研修を実施した。
- 1-3. バーミヤーン遺跡保存のための専門家会議への出席：イタリア環境保護調査研究所の主催により12月10日～11日にかけてイタリア・オルビエートで開催された第12回専門家会議「12th Expert Working Group Meeting for the Preservation of the Safeguarding of the Cultural Landscape and Archaeological Remains of the Bamiyan Valley World Heritage Property, Afghanistan」に出席した。
- 1-4. 外部機関・団体との共同研究等：名古屋大学「ユーラシア大陸における文化遺産資料の自然科学的手法による年代学的研究」；名古屋大学への委託事業を通して、バーミヤーン遺跡などアジア各地の遺跡の出土遺物を対象に高精度の放射性炭素年代測定を実施し、考古・美術史研究の知見と総合して、遺跡の年代学的研究を行った。奈良女子大学「ユーラシア地域の文化財におけるタンパク質含有資料に関する科学的研究」；奈良女子大学との連携研究を通して、バーミヤーン遺跡の壁画資料等タンパク質を含む文化財資料についてプロテオミクスの手法に基づく分析を行い、古代における動物利用の実態と製作技術基盤の解明を試みた。武庫川女子大学「アフガニスタン・バーミヤーン遺跡の保護と公開・活用のための施設の基本設計策定に関する総合的研究」；アフガニスタン・バーミヤーン遺跡の保護と公開・活用のための博物館／文化センター相当施設の建築および都市景観の基本計画・設計を行った。

2. イラク

イラク人文化財専門家を育成し、イラク人による文化財復興を支援する。イラク国立博物館より保存修復家1名をアルメニアに招へいし、1月15日～21日にかけてアルメニア共和国歴史博物館にて開催した「考古青銅遺物の保存修復に関する国際ワークショップ」と連携して、保存修復に関する人材育成を実施した。

3. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

3-1. インド

アジャンター壁画の保存修復に関する報告書を刊行した。

②国際協力・交流等 Area11

3-2. 中央アジア

- ・タジキスタン：タジキスタン出土の壁画資料の保存をはじめ、文化遺産保護活動への支援を実施した。
- ・キルギス共和国科学アカデミーとの文化遺産保護の分野における協力；文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、8月、9月に発掘、保存修復、史跡整備に関するワークショップ、2月に出土遺物の保存修復に関するワークショップを実施した。
- ・タジキスタン、ウズベキスタンにおける文化遺産のドキュメンテーションに関するワークショップへの協力；ユネスコ／日本文化遺産保存信託基金事業と連携し、11月にタジキスタン、12月にウズベキスタンにおいてワークショップを実施した。

3-3. エジプト

JICA受託「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」にかかる支援業務を実施した。

3-4. コーカサス

アルメニア共和国歴史博物館との考古青銅遺物の保存修復に関する協力を実施した。文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、ワークショップを6月、1月に開催した。また、本事業に関する報告書を刊行した。

4. 国際会議等の主催・参加

- ・国際シンポジウム「シリア復興と文化遺産」を主催した（10月31日、於東京文化財研究所）。
- ・国際会議「Sub-regional closing meeting of UNESCO/Japan Funds-in-Trust project: Support for documentation standards and procedures of the Silk Roads World Heritage Serial Transnational Nomination in Central Asia」（12月4日～5日、於タシケント、ウズベキスタン共和国）への参加。

刊行物

- ・『Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Supplement 6 Documentation of the Bamiyan Sites 3 Conservation of the Mural Paintings of the Bamiyan Buddhist Caves』（アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第6巻 バーミヤーン遺跡資料集3 バーミヤーン仏教石窟壁画の保存修復）東京文化財研究所 13.6
- ・『Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan, Supplement 7 Documentation of the Bamiyan Sites 4 Architectural Survey of the Bamiyan Buddhist Caves』（アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第7巻 バーミヤーン遺跡資料集4 バーミヤーン仏教石窟の建築調査）東京文化財研究所 14.2
- ・『Recent Cultural Heritage Issues in Afghanistan 5 Structure, Design and Technique of the Bamiyan Buddhist Caves』東京文化財研究所 13.6
- ・『インドー日本文化遺産保護共同事業報告第4巻 アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究—第2窟、第9窟壁画の保存修復と自然科学調査（2009～2011）—』東京文化財研究所 14.3
- ・『インドー日本文化遺産保護共同事業報告第4巻（資料編）アジャンター第2窟壁画の彩色材料分析』東京文化財研究所 14.3
- ・日本ーアルメニア文化遺産保護協力事業報告第1巻『アルメニア歴史博物館所蔵 考古金属資料の保存修復と自然科学的調査 2011・2012年度（第1次～第4次ミッション）』東京文化財研究所 13.5

研究組織

○川野邊渉、山内和也、安倍雅史、川口雄嗣、田島さか恵、久米正吾、藤澤明、山田大樹、近藤洋、本郷浩志（以上、文化遺産国際協力センター）、松田泰典、杉原朱美、間舎裕生、釘屋奈都子、谷口陽子、山藤正敏、有村誠、邊牟木尚美、鈴木環（以上、客員研究員）、森本晋、石村智、田代亜紀子（以上、奈良文化財研究所）